

夏休みにぜひ読んでほしい本の紹介

(1) 『龍の耳を君に』

聞こえない両親のもとで育ったコーダで手話通訳士である登場人物が、ろう者の起こした強盗や傷害事件に関わっていく過程で垣間見える心優しい生き方や考え方のほか、自身が出逢う人物との間で起こる様々な葛藤を上手に描いたミステリー小説です。

本校の図書室にもある『デフ・ヴォイス 法廷の通訳士』に続く第二弾です。



(2) 『慟哭（どうこく）は聞こえない』

上の書籍に続く連作ミステリー小説。世の中のろう者が抱えるさまざまな問題を、コーダでもある手話通訳士の視点から、登場する人物の心情やその変化の捉え方を上手に描いており、大変おもしろく、お勧めの一冊です。

「手話」とは何かを改めて深く考えさせられ、多くの気付きを私たちに与えられること間違いなしです。

ぜひ、この夏休みに皆さんに読んでほしいと思います。



聴覚障がい者らが開発した透明マスク

長引くコロナ禍で、マスク着用が当たり前になった今、聴覚障がい者にとっては、相手の口の動きや表情が見えずにコミュニケーションが取りづらくなっています。

そんな中、聴覚障がい者や支援団体で構成された「あやベネットワーク」（京都府）と、愛知県の高機能ゴムや樹脂製造などを手掛ける企業が共同で開発したのが、この口元が見える透明マスクです。

透明フィルムで鼻回りを覆う構造で、前面のフィルムには曇り止め加工がなされているほか、付近にも不織布を使用するなど、呼吸がしやすい工夫がなされています。すでに似たような透明マスクも流通していますが、今後、全国の聴覚障がい者団体などに配布されるのを機に、普及するのを期待したいところです。



教職員対象研修会

本校では年間を通して様々な研修を行っています。聾学校ならではの研修もたくさんあります。今回は1学期に実施した学習会や研修会についてお伝えします。

IP トーク研修会



目的：機器操作に慣れ、様々な場面でパソコンを用いた文字による情報保障（パソコン要約筆記）が行えるようにする。

研修では、二人一組になり、講師が読み上げた文章をパソコンに打ち込む練習等を行いました。ゆっくりと読み上げてもらっている間は、余裕を持って文字を打ち込むことができましたが、普段の会話のスピードになると、素早く正確にタイピングする難しさを実感しました。中にはペアで息を合わせ、内容に漏れがないように打ち込んでいる先生方もいらっしゃいました。今後も、より多くの教職員が様々な場面で情報保障が行えるようにスキルの向上を目指したいです。

IPトーク（IPtalk）はパソコンを利用し、リアルタイムに文字入力したり、準備した文章を表示したりするソフトウェアです。このソフトウェアで聞こえに障がいのある方のために、情報保障（パソコン要約筆記）ができます。



手話学習会（初級編）

目的：聴覚障がいの特性を踏まえたコミュニケーションの基本的な考え方について知る。

5、6月に新転任者の教職員を対象とした、手話学習会を行いました。「相手に伝えることの大切さ」をテーマにゲームをしたり、「手話の成り立ち」を学んだりしました。赴任してきたばかりで、手話に慣れていない教職員も、聴覚に障がいのある教師が手話のジョークを交えて明るい雰囲気で行うことで、楽しく意欲的に参加できました。この学習会を通して「手話の表現が分からなくても、どうすれば相手に伝わるか、自分で工夫しながら表現しようとする姿勢が大切なんだ。」と感じました。



全国手話検定試験の受験について

「第16回全国手話検定試験」は、下記の日程で実施されます。

○実施日

級	日程	試験時間
5・4級	令和3年10月9日(土)	5級 9:30~12:30 4級 13:30~16:30
3・2級	令和3年10月10日(日)	3級 9:30~12:30 2級 13:30~17:00
準1・1級	令和3年10月16日(土)	準1級 9:30~13:00 1級 13:00~17:00

※愛媛会場では、準1級・1級の実施はありません。

○会場は未定です。

○申込受付期間：令和3年7月10日(土)～8月12日(木)

○試験結果の発表：令和3年12月下旬

※申し込み方法等の詳細については、

全国手話検定試験公式ホームページ (<https://kentei.com-sagano.com/>) をご覧ください。

◆ 5級・4級・3級 ◆

実技試験	
手話での読み取り	方法： テレビ画面に提示される手話を見て文書の設問に答え、マークシートに解答を記入します。 内容： 「基本単語の読み取り」と「短文の読み取り」
手話での表現 (手話によるスピーチ)	方法： 個別面接の方法で行います。 内容： テーマが示されますので、そのテーマに基づいて手話でスピーチをします。
手話での会話 (手話による応答)	方法： 「手話での表現」試験に引き続き、「手話での会話」試験が始まります。 内容： 手話で表現した内容を参考に各級の受験のめやすの範囲で、面接委員の手話での質問に手話で応答をします。

◆ 2級・準1級・1級 ◆

実技試験	
手話での読み取り	方法： テレビ画面に提示される手話を見て文書の設問に答え、マークシートに解答を記入します。 内容： 「基本単語の読み取り」と「ストーリーの読み取り」 ※ 1級は「基本単語の読み取り」試験はありません。
手話での表現 (手話によるスピーチ)	方法： 個別面接の方法で行います。 内容： テーマが示されますので、そのテーマに基づいて手話でスピーチをします。
手話での会話 (手話による応答)	方法： 「手話での表現」試験に引き続き、「手話での会話」試験が始まります。 内容： 手話で表現した内容を参考に各級の受験のめやすの範囲で、面接委員の手話での質問に手話で応答をします。

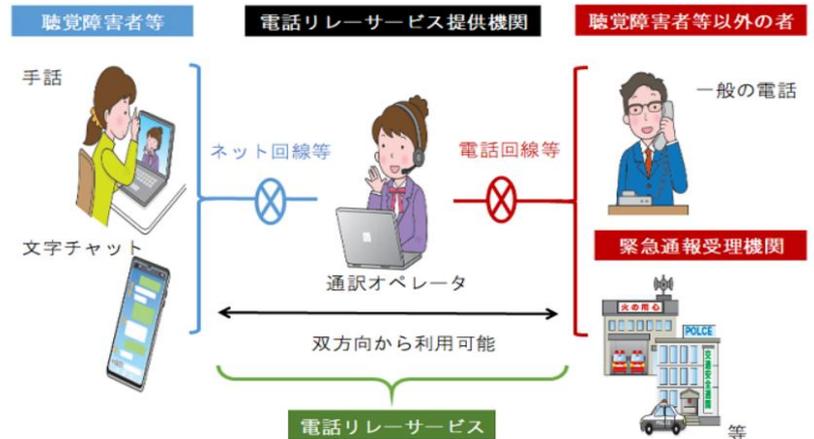


筆記試験	
試験科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚障害者とのコミュニケーション手段とその特徴 ・ 耳の仕組み、障害と社会環境 ・ 聴覚障害者の暮らし ・ ろうあ者の歴史 ・ 聴覚障害者関連福祉制度 ・ 手話の基礎知識
解答の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2級は四肢択一方式 ・ 準1級は穴埋め方式 (下記の解答欄から選択) で行います。 ・ 1級は小論文方式(600字程度)で行います。

本校では、2学期から手話検定試験対策を含めた手話学習会を開催します。本校教職員、生徒、保護者を対象に、受験希望の有無に関わらず、誰もが楽しく手話を学べる学習会です。

電話リレーサービスについて

〈電話リレーサービスのイメージ〉



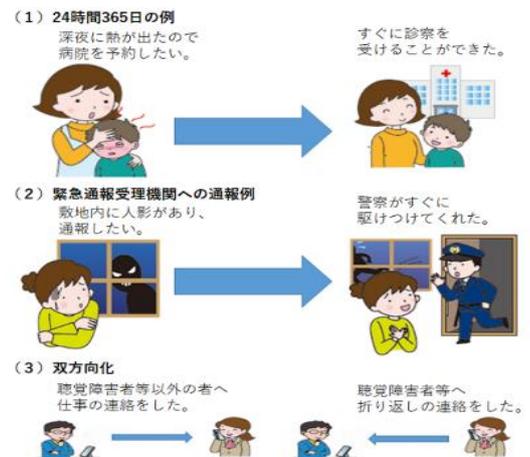
みなさん、電話リレーサービスをご存知ですか。みみちゃん 90 号、95 号で紹介しましたが、電話リレーサービスとは、「聴覚や発話に困難のある方と聴覚障害者等以外の者との会話を、通訳オペレータが手話・文字と音声を通訳することにより電話で双方向につなぐサービス」です（総務省ホームページより）。公共インフラとして令和 3 年 7 月 1 日より本サービスが開始されました。

「電話リレーサービス」はどんなことができるの？

(例)

- ① 24 時間 365 日対応可能 → 夜間、子どもが熱を出したけど、救急当番の病院ですぐに受診できた。
- ② 緊急通報 → 警察に通報して、すぐに駆けつけてくれた。
- ③ 通話の相手との双方向での発信 → 仕事相手と電話で打合せができた。
- ④ その他 → お店の予約、家族・友人との連絡など

電話リレーサービスは、聴覚障がいのある方から電話を掛けるだけでなく、聴覚障がいのある方へ電話を掛けたい人にとっても利用できるサービスです。このようにすべての人にとって利用しやすいサービスが広がっています。ぜひ一度試してみませんか。



【参考 URL】

- ・ 総務省ホームページ 「電話リレーサービス」
https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/telephonerelay/index.html
- ・ 日本財団電話リレーサービス
<https://nftrs.or.jp/>
- ・ 一般財団法人 全日本ろうあ連盟 「電話リレーサービス普及啓発推進事業」
<https://www.jfd.or.jp/trs/abouttrs/about2020>